

じんけん通信

令和4年(2022年)3月(第167号)

滋賀県の広報誌「滋賀プラスワン」の令和3年9・10月号でも特集したところですが、中学校の教科書にも取り上げられている『全国水平社創立宣言』(以下、『宣言』という。)が発表されてから本日(令和4年(2022年)3月3日)で100周年となります。

今回のじんけん通信では、「長い歴史の中で不当な差別を受けてきた人々の痛切な思いがつつらわれているだけでなく、すべての人があらゆる差別を受けることなく、人間らしく暮らしていける社会の実現を願う気持ちが込められている」この『宣言』について、改めて人権の視点から考えるとともに、この100周年を記念し、本日リニューアルオープンとなる「水平社博物館(奈良県御所市柏原235-2)」について、同館の佐々木健太郎学芸員にお話を伺いました。

今号の取材内容にもあるように、被差別者からの『宣言』は、日本で初めての人権宣言とも言われていることから、この100周年を契機に、お互いを認め合い、尊重する社会の実現への更なる一歩となれば幸いです。

(図1 「水平社博物館・水平社創立100周年記念事業実行委員会奈良」より)



水平社創立100周年
100th ANNIVERSARY

水平社創立100年。私たちは地球的視野で、 共に生きる地域社会をめざします。

日本の人権宣言たる「水平社宣言」を掲げて、水平社は歴史に登場しました。その運動は差別と果敢に闘いながらも、戦争に飲み込まれ、幾多の困難を乗り越えて私たちに引き継がれてきたのです。創立100年、人権への歩みの先頭に立ち、更に国際的人権の現在形=SDGsと深く結びついて、共に生きる地域社会の実現をめざします。

水平社博物館・水平社創立100周年記念事業実行委員会奈良

特集「人権のふるさと 水平社博物館」リニューアルオープン

■「水平社博物館」について

◆水平社博物館の設立の経緯を教えてくださいませんか？

1980年代から全国各地で同和地区の改良事業が展開されていたのですが、水平社博物館のあるこの地においても1980年後半ごろから事業が行われ、その際にこの地の出身である阪本清一郎や西光万吉、駒井喜作など水平社の創立に中心的に関わった方に関する史料が発掘されたため、それを整理をしていったところ、非常に貴重な史料が数多く残っていることがわかりました。

こういった貴重な史料を散逸させないように、またこれまで誰の目にも触れないままであった差別と闘ってきた先人たちの思いが含まれた記録を多くの方に見ていただき、「人権ってなんだろう、部落差別ってなんだろう」ということや、さらに差別と闘ったその熱意を感じてもらって、新しい

(写真1 水平社博物館外観)

ものも含めた今ある様々な差別に対して、いろいろと考える助けになれば、ということや、これに加えて人権に関する情報発信をすることができないだろうかとなり、水平社博物館をこの場所に建てようと、1998年5月1日に開館することとなりました。



◆次にリニューアル前の水平社博物館の展示内容について教えていただけますか？

リニューアル前の展示内容としては、「なぜこの地から水平社を立ち上げようと思ったのか」というところを中心に紹介し、その次に「水平社の全国への展開」を加え、最後はまたこの奈良県における水平社の活動を紹介するものとなっていました。

具体的には、「柏原の三青年」と呼ばれる阪本清一郎や西光万吉、駒井喜作たちによって、「水平社を突然作ろう」となったわけではなく、彼らの親の世代にあたる人物達が、どのような差別に対して、どのような闘いを展開していったのか、あるいは、なぜその闘いが可能となったのか、ということを経済的な基盤やこの地域特性から紹介したうえで、実際にどのように水平社ができたのかを紹介していました。

次に全国に水平社が広がっていった際、全国各地の水平社がそれぞれどのように創立し、活動をしていたのかという紹介を行い、最後は水平社博物館があるこの奈良県の水平社の活動内容を紹介する、という展示内容でした。それらを通して、差別と闘っていった先人たちの想いや考え方で含めて感じ取っていただけたら、という展示になっていました。

(図2 リニューアル前の水平社博物館パンフレット表面)

1F エントランスホールのご案内

人権ふるさとマップ
水平社発祥の地・柏原と、水平社創立に至るまでの経過を映像と地図で紹介いたします。また、館内案内映像もご覧いただけます。

ビデオコーナー
全国水平社の活動家6人を、映像で紹介しています。
○朝田善之助さん ○泉野利喜蔵さん
○井元麟之さん ○北原泰作さん
○松田喜一さん ○松本治一郎さん

館内でわからないことがあれば、お気軽に受付でお尋ねください。各種ご案内・グッズ販売等のほか、車椅子・ベビーカーの貸し出しも行っていきます。

《館内案内表示マーク》

■開館時間 10:00~17:00
(入館は16:30まで)

■休館日 毎週月曜日・毎月第4金曜日
(祝日・休日の場合は開館。翌日休館)
年末・年始、臨時休館日
※詳細はHPでも確認できます。

入館料	個人	団体(20人以上)
小学生	200円	100円
中・高校生	300円	150円
大人	500円	400円

★障害をもつ方は無料

■交通
《電車》 JR掖上駅より徒歩1.2km
《バス》
・近鉄橿原神宮前駅より御所行き・15分
・近鉄御所駅より八木行き(郡界橋経由)・10分
郡界橋バス停下車0.5km

人権のふるさと 水平社博物館

SUIHEISHA
HISTORY MUSEUM

フィールドワークのご案内

水平社博物館周辺には、水平社ゆかりの史跡が点在しています。ご来館時にお渡しする周辺マップを手にぜひ歩いてみてください。

水平社博物館前の人権のふるさと公園では、史跡とともに、桜や紅葉など、四季の草花を楽しんでいただけます。

〒639-2244 奈良県御所市柏原235-2
TEL: 0745-62-5588 FAX: 0745-64-2288
E-mail: suihei@mahoroba.ne.jp
URL: http://www1.mahoroba.ne.jp/~suihei

「人の世に熱あれ、人間に光あれ」

1922年3月3日、全国水平社創立大会で読み上げられた全国水平社創立宣言は、日本で初めての人権宣言として、また、被差別マイノリティが発信した世界で初めての人権宣言として、高く評価されています。

全国水平社結成の中心となったのは、奈良県御所市柏原の青年たちでした。ここ、柏原を日本の「人権のふるさと」として、水平社博物館は1998年の開館以来、水平社運動の歴史と、差別に立ち向かってきた先人たちの精神を伝えてきました。

2015年、当館は日本の機関として初めて、FIHRM(国際人権博物館連盟)に加盟しました。差別のない世の中を願い、世界に向けて今後さまざまな人権情報を発信し続けていきます。

(図3 リニューアル前の水平社博物館パンフレット中面)

D 全国水平社創立前夜

柏原の青年が中心となり、差別のない「よき日」をめざした運動は、他の被差別部落とも結びつき、人間の尊厳と平等を求める水平社の創立へとつながりました。



B 対等・平等を求めて

水平社創立以前の差別との闘いと、それを支え水平社創立を可能にした柏原の膠づくりや桐材産業を紹介しています。また、部落差別の撤廃をめざして1912年に創立された大和同志会の運動を紹介しています。



C 大和同志会の結成

水平社創立以前の差別との闘いと、それを支え水平社創立を可能にした柏原の膠づくりや桐材産業を紹介しています。また、部落差別の撤廃をめざして1912年に創立された大和同志会の運動を紹介しています。



2F展示室

柏原の地から生まれた水平社の歴史と、差別のない「よき日」をめざして闘った先人たちの姿を紹介します。

部落差別とは
被差別部落出身であることを理由に行われる差別のことで、結婚や就職などの場面でさまざまな不平等が生じています。今もなお、自由・平等に生きる権利が完全に保障されているとはいえ、今後も日本社会が解決していくべき大きな課題です。

F 全国水平社の展開

水平社は移り変わる時代の影響を受けながらも、部落解放を求めました。

G 全国水平社を支えた人びと

全国水平社の活動家を、地方別に紹介しています。また、水平社運動は部落外のさまざまな人びとに支えられていました。

〈荊冠旗〉
荊の冠はキリストが処刑の際に被せられた冠で、解放を求めて差別と闘う人々を「殉教者」にたとえています。



A プロローグ

—なぜ私たちの者だけが、嫌われたりいじめられたりするの—
幼い頃に感じた不合理と差別への怒り。水平社を生み出し、運動を支えた原点がここにあります。



E 全国水平社の創立と広がり

1922年3月3日の 京都市公会堂にタイムスリップ。



(ファンタビューシアター)

堂内が熱気に満ち、全観衆が感動に震えた水平社の創立大会に参加してみましょう。

I エピローグ

楽しみながら、人権感覚を磨きましょう。

〈映像の中の自分〉
「I Have a Dream!」
人種差別撤廃を訴えたキング牧師の演説を、聴衆の中で聞くあなたがいるかも。



ビデオコーナー

創立者の語りに耳を傾けてみましょう。
★水平社ができるまで
★水平社の創立

シアター外壁には世界各地の「水平線」の風景が描かれています。



B 「水平社と衡平社 国境を越えた被差別民衆連帯の記録」

両社の交流を示す史料が、2016年ユネスコのアジア太平洋地域「世界の記憶」に登録されました。



世界の記憶
Memory of the World

■水平社博物館リニューアルについて

◆水平社宣言 100周年に合わせたリニューアルのコンセプトを教えてくださいませんか？

今回の水平社宣言 100周年を記念してのリニューアルでは、ファンタビューシアター（図3のE：全国水平社創立大会の様子を映像で再現したもの）以外のすべてがその対象となります。壁や内装もです。

概要を説明しますと、まず水平社設立の理念や思想がどのように、日本国内、そして世界に広がっていったか、次に、部落差別はもとより人権ってどういうことかということをもより深く考えてもらえるように、たとえ理解が難しかったとしても感じ取ってもらえるような展示にしていきたいと考え、今準備を進めているところです。

最初に「人権とは何か」ということを考えてもらい、次にどうして人権を尊重する必要があるのか、これからどのように守っていくべきなのかということを考えていただきたいと思っています。

具体的には、先人達が闘って獲得してきた人権の経緯、それをどのように受け継いできたか、さらに今拡大している内容について、「人権とは何か」という切り口から考えています。

言い換えると、水平社がどのように闘って創立できたかということ、これまでは地域に根差した形で展示・紹介していましたが、リニューアル後にはよりもっと大きな視点、世界的な流れも含めた視点から、展示していきたいと考えています。水平社というものが、どのような活動をしてきたか、についてはこれまでからの展示を継承していきますが、水平社の活動が終わってから今に至るまで、どのような人権問題があり、それぞれに対して闘っていった人達がいたということ、そこ

には100年前の『宣言』にあるその思想、理念が受け継がれており、今もなお様々な闘いに受け継がれている、ということを紹介していきたいと考えています。

(図4 水平社博物館リニューアルのイメージ図)



◆視点も大きく変わるということですね？

どちらかというこれまでの展示では、ちょっとミクロ的な視点の当て方をしていましたが、リニューアル後には、グローバルな今の時代の非常に大きな視点から見た、いわゆる俯瞰的っていうとちょっと大げさになるかもしれませんが、より大きな視点から、色々な物事を感じ取ってってもらえるように、と考えています。

◆ターゲット層や展示後の学びについてはどのようにお考えですか？

これまでから学校の学習とかでお越しいただく機会がありました。特に中学生ですが、県外からの修学旅行や社会見学でお越しいただく機会が多かったので、リニューアル後には中学生にとって、より理解しやすくなるように、また、より深く知りたいなと思ってもらえるような展示に変換をしていこうと考えています。

展示を見て終わりではなく、見て学習した生徒の皆さんが自発的にもっと知りたい、と思ってもらえるのが一番です。また引率された先生方が、さらに深めて教えていただけたるように、そういう広がりを持った展示を目指して今制作しているところです。

◆中学生が100年前のことを身近に感じることは難しく思いますが、どのような工夫をお考えですか？

年数の桁が大きくなればなるほど、過去の話、歴史の話となり自分とは関係がない、となってしまうところがあるので、『宣言』にある言葉に共感や感銘を受けた人たちが、自分たちの活動に置き換えてきた結果、様々な物事が今現在に展開していることを伝えたいと思います。

また、この100年前に出された『宣言』、その思想や理念っていうものが、今メディアもよく取り上げられている国連が提唱するSDGsにも繋がっている、ということも知ってほしいと思います。

身近な事例としては、履歴書の問題があります。過去には各会社がそれぞれに様式を作成し、両親の職業や本籍地まで聞いていましたが、水平社の理念を展開した部落解放同盟や学校の先生達が闘った結果、今はエントリーシートやネットの履歴書でさえもそういう部分を書く必要がなくなってきました。今、当たり前として享受していることにも、そういった歴史があったっていうことを知ってほしいと思います。

また、子どもたちに向けて講演したときに、結婚差別にまつわる話の際に目の色が変わる子が今でも多くいます。自分が部落出身じゃないからということで最初はピンとこない子が多いけど、でもあなたの好きな人とかがそうだったらどうするのって言ったときに、身近に思い、気付く子が多いと思います。

つまり100年前の考え方も今の考え方も、変わっているけど変わってないものがあるということ。守らなきゃいけないことを守るために闘っていかなくちゃいけないこと、その中で、勝ち得たものによって今の自分たちが守られている、というところまで、展示を最後まで見ていただいたときに、何となくわかって、また2回目見てこういうことかな、3回見てなるほど、と何度も足を運んでいただいて、理解をどんどん深めていってもらえるような工夫を今考えています。

そのためにも、新しい仕掛けや新たな展示の手法を取り入れたり、パーツと展示を見るだけで終わってしまわないように、パネルモニターを自分で触って感じてもらえるようにしたり、学習を深めていただきやすいものにしたいと考えています。

(写真2 佐々木学芸員、リニューアル中の工事現場で)



◆ほかにはどのような展示の工夫をお考えですか？

エピローグのコーナーですけれども、ことばの「美術館」というコーナーを作ります。著名な方々の言葉のパネルが多く埋め込みである一方で、モニターを設置し、30秒から1分ぐらいの間隔で、言葉が変わっていくように考えています。

このモニターに映す言葉は、当館で毎年募集していた「あなたの中にある『熱』と『光』を、家族や友達など大切な人へ向けた『おもいやり』『希望・夢』にかえた」ショートレターでの言葉や、このリニューアルに合わせて様々な方から募集した言葉やフレーズを含める予定です。この言葉好

きだなあ、とかそういったものが何か1個でも最後に持ち帰ってもらえたら、と思います。

そのエピローグのコーナーにはソファも配置し、座りながら、その言葉をジーとみる、時間が許す限り眺めてもらい、ほっこりして帰ってもらおうと、そういうふうな形で今何とか必死になって作っています。

■水平社博物館からのメッセージ

◆最後に水平社宣言100周年という節目にあたって、メッセージをお願いします。

先ほどの繰り返しともなりますが、私が特に子どもたちに対して講演をする際に、いつも伝えていることは、部落差別だけではなく、ほかの様々な差別も含めて、人権がどれだけ身近な存在なのか、自分にとってどれだけ大事かということを感じ取って欲しい、ということです。

また、先生など大人に対しては、自分たちの周りにいる子どもたちにそれをしっかりと伝えて欲しい、ということです。

100年前に水平社ができる以前にも差別をなくす運動はあったのですが、水平社の思想がどうして今の人間の胸に響くのか、『宣言』が持つ熱量や力強さをどうして今も感じ取れるのか、というのは、やはり100年前に闘ったその闘いというものが終わったものではなく、今も継続している、ということを改めて感じてほしいと思います。

水平社の思想、理念ってというのは、今も息づいているからこそ『宣言』が熱く、力強い。

これを100周年の節目の年に改めて人権や差別、そういったものと一緒に考えていってもらえたらな、と思います。

佐々木学芸員、リニューアル中のお忙しいところ、ありがとうございました！



「僕も行ってみるのだー！」



■「水平社博物館」への行き方など

おすすめルート

JR 大津駅～京都駅 [乗り換え] →近鉄 京都駅～橿原神宮前駅
[乗り換え] →奈良交通バス 橿原神宮前駅西口～近鉄御所駅行き 郡界橋 下車
徒歩 0,5 km 約 5 分 ※バスの本数が少ないので、ご注意ください。

そのほかのルート

JR 大津駅～JR 和歌山線 菟上 (わきがみ) 駅 下車 徒歩 1,2 km 約 15 分

(写真3 郡界橋バス停、水平社博物館への案内図もあります)



(写真4 水平社博物館近隣の人権関連施設マップ)



人権カレンダー 3月

●自殺対策強化月間

政府では、悩みを抱えた人たちに広く支援の手を差し伸べていくことにより「誰も自殺に追い込まれることのない社会」の実現を目指し、毎年3月を「自殺対策強化月間」に設定しています。月間中は、自殺対策を集中的に展開するものとし、啓発活動と併せて相談事業等の支援策を重点的に実施することとしています。

<滋賀県自殺対策推進センター 自殺予防電話相談>

TEL 077-566-4326 / 9 時 00 分～21 時 00 分(年末年始を除く)

●1日 エイズ差別ゼロの日

平成 25 年 (2013 年) 12 月 1 日にオーストラリアのメルボルンで開かれた世界エイズデーの式典で、国連合同エイズ計画 (UNAIDS) により定められました。

●3日 全国水平社創立

大正 11 年(1922 年)のこの日に全国から被差別部落の人々が京都に集まり、創立大会が開かれました。そして、「人の世に熱あれ、人間に光あれ」の言葉で結ばれる全国水平社創立宣言が採択されました。

●8日 国際女性デー

昭和 50 年 (1975 年) の「国際婦人年」に国連により定められました。女性たちが、平和と安全、開発における役割の拡大、組織やコミュニティにおける地位向上等によって、どこまでその可能性を広げてきたかを確認すると同時に、今後のさらなる前進に向けて話し合う機会として設けられた記念日です。

●21日 国際人種差別撤廃デー / 21 日～27 日 人種差別と闘う人々との連帯週間

昭和 35 年 (1960 年) 3 月 21 日に人種隔離政策 (アパルトヘイト) に反対する平和的なデモ行進に対して警官隊が発砲し、69 人が殺害されました。昭和 41 年 (1966 年) にこの国際デーを宣言するにあたり、国連総会は国際社会に対し、いかなる人種差別も根絶するよう一層の努力をしていくよう求めました。また、3 月 21 日からの 1 週間は、世界中で人種差別の撤廃を求める運動が展開されています。

●21日 世界ダウン症の日

平成 16 年 (2004 年) に世界ダウン症連合が制定し、平成 24 年 (2012 年) からは国連が国際デーの 1 つとして制定しました。ダウン症のある人たちとその家族、支援者への理解がより一層深まり、ダウン症のある人たちがその人らしく安心して暮らしていけるように、さまざまな啓発イベントを通して世界中の人々に訴えていくための日です。

ジンケンダーのちょっと一言

人権を大切にする心はいつの時代も変わらないのだー！

